

平成30年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立越ヶ谷高等学校 全日制の課程)

目指す学校像	「知・徳・体」の調和がとれた社会の発展に貢献する人材の育成
--------	-------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 家庭学習時間の確保とアクティブラーニングの推進 2 国公立大学進学希望者への支援充実で国公立大学合格者50名以上 3 規範意識及びマナー意識の高揚と部活動・学校行事を通じた人づくり 4 地域・保護者との連携・協力の強化と施設事故及び教職員事故ゼロ 5 グローバル化に伴う生徒の発信力の向上
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 3 1 日 現 在)			
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 3 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>○1・2年次生の家庭学習時間が平日1時間程度、休日2時間程度に止まり、週14時間以上の家庭学習時間が確保されていない。部活動との兼ね合いもあり、現実的には難しい現状がある。1・2年次生は、学習コンテンツ「スタディサプリ」を全員が登録している。</p> <p>平日2時間、週14時間以上の学習時間の確保が課題である。</p> <p>○新学習指導要領が告示され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、教職経験の浅い教員を中心に、協調学習の研究や実践が行われている。</p> <p>学校全体で組織的に取り組む体制づくりと教職経験が豊富な教員への働きかけが課題である。</p>	<p>○隙間時間を有効活用し、平日2時間を基本とし、週14時間以上の学校外での学習時間を確保する。</p> <p>○新学習指導要領の研究とアクティブ・ラーニングの実践及び研究を学校全体として取り組む。</p>	<p>①スコラ手帳等により、担任が生徒個々の、休日の過ごし方を把握し、適宜、指導助言を行う。</p> <p>②担任、年次間で「スタディサプリ」の活用状況を毎学期把握する。</p> <p>③校内でのタブレット使用の環境整備を5月末までに行う。</p>	<p>①担任が休日の過ごし方について指導助言することにより、学校外での学習時間が週14時間以上となったか。</p> <p>②「スタディサプリ」の活用により、平日の学校外での学習時間が増えたか。</p> <p>③環境整備が目標とする5月末までに終了したか。</p>	<p>①1年次(平日1:07 休日2:01)、2年次(平日1:02 休日1:48)。</p> <p>①スコラ手帳を活用し、担任が学校外での学習時間の把握と適宜個別指導助言を実施。</p> <p>②「スタディサプリ」の活用時間は増えているが、学校外での学習時間の目標は未達成。</p> <p>③6月にタブレットの利用規約を定め、貸出台帳により管理。11月に各教室にプロジェクターの設置。12月に全校舎にWi-Fi環境を整備。</p> <p>④2年計画での学習室の新設を決定。</p>	<p>○1年次(平日1:07 休日2:01)、2年次(平日1:02 休日1:48)。</p> <p>①スコラ手帳を活用し、担任が学校外での学習時間の把握と適宜個別指導助言を実施。</p> <p>②「スタディサプリ」の活用時間は増えているが、学校外での学習時間の目標は未達成。</p> <p>③6月にタブレットの利用規約を定め、貸出台帳により管理。11月に各教室にプロジェクターの設置。12月に全校舎にWi-Fi環境を整備。</p> <p>④2年計画での学習室の新設を決定。</p>	B	<p>隙間時間を有効活用させ、学校外での学習時間を週14時間以上とすることが引き続きの課題である。</p> <p>第2学習室及び学習室周辺の整備が課題である。</p> <p>タブレットを活用した授業の工夫・改善が課題である。</p>
2	<p>○現役国公立大学合格者数は30名(卒業生324名、一昨年度4名)(GMARCH以上の難関大学合格者数は149名(一昨年度14名)であった。</p> <p>入学当初から国公立大学を意識した指導が課題である。また、本校生徒の特徴である7月実施のベネッセ模試での著しい成績の下降を少なくすることが課題である。</p>	<p>○1・2年次生の国公立大学進学希望者への意識を高めて、進学希望者数を増加させる。</p>	<p>①長期休業中の部活動と区分けした進学講習の実施方法や内容を見直す。</p> <p>②2年次生対象進学講習の全体計画で、ゼロ学期を意識した計画を見直す。</p> <p>③学年PTAや保護者対象進路講演会での内容の中に、国公立大学についての情報を盛り込む。</p> <p>④1年次からの「国公立大学進学希望クラス」の設置を決定できたか。</p>	<p>①担任が休日の過ごし方について指導助言することにより、学校外での学習時間が週14時間以上となったか。</p> <p>②「スタディサプリ」の活用により、平日の学校外での学習時間が増えたか。</p> <p>③環境整備が目標とする5月末までに終了したか。</p>	<p>○国公立大学進学希望者：1年次246名、2年次137名。3年次センター試験受験者：355名</p> <p>①1・2年次生対象進学講習(夏季休業中)を計画通り実施。</p> <p>②2年次生対象進学講習を10月から実施。</p> <p>③4月14日に年次PTA、6月23日にPTA進路講演会で国公立大の情報を提供。</p> <p>④1年次からの「国公立大学進学希望クラス」を決定。今年度は、試験的に1年次2クラス設置。</p> <p>④2月、「国公立大学進学希望クラス」の検証会を開催決定。</p>	A	<p>国公立大学合格者を50名以上とすることが引き続き課題である。</p> <p>来年度から1年次に国公立大学進学希望者クラスを設置するが、3年間、国公立大への意識を持続させることが課題である。</p> <p>保護者に対して、国公立大学や高大接続改革等についての情報を随時提供していくことが課題である。</p> <p>年次団中心ではなく、進路指導部が方針を示し、主体性を持った進路指導とする。</p>	
3	<p>○生徒は基本的な生活習慣が身につけており、充実した学校生活を送っている。また、昨年度末、防犯カメラ13台を設置したことにより、防犯環境も著しく向上した。</p> <p>昨年度の自転車事故は12件、通学マナーの苦情件数は8件であった。スマートフォンでの年次指導件数は、相変わらず多い状況である。</p> <p>自転車マナー及び登下校の通学マナーの向上が課題である。また、スマートフォン使用での生徒意識の高揚と年次指導者数の減少が課題である。</p>	<p>○自転車マナー及び登下校の通学マナーの向上、自転車事故及び苦情をゼロとする。</p> <p>『スマホ8ヶ条』による生徒意識の高揚で、年次指導件数を減少させる。</p>	<p>①生徒指導部を中心に、学校周辺通学路での登校指導を新たに実施する。</p> <p>②年2回の自転車点検とその追指導の継続、自転車保険加入の確認を行う。</p> <p>③始業式や終業式等の全校集会で、生徒指導主任と管理職から「命の大切さ」と交通安全に関する内容を話す。</p>	<p>①新たな登校指導により、近隣住民からの苦情が減少したか。</p> <p>②計画どおり、自転車点検・追指導と自転車保険加入の確認が行えたか。</p> <p>③自転車による加害及び被害事故が減少したか。</p>	<p>○自転車事故件数10件、通学マナーへの苦情件数6件。(昨年度12件、8件)</p> <p>①学校周辺通学路での登校指導を3ヶ所増やして実施。</p> <p>②9/13、自転車マナーアップ指導を実施。自転車保険加入状況は100%。</p> <p>③自転車点検、計画どおり年2回実施。</p> <p>④不十分な生徒の追指導も徹底。</p>	B	<p>昨年度に比べ、自転車事故件数、通学時のマナーへの苦情件数は減少したが、来年度、発生数をゼロとすることが課題である。</p> <p>来年度から、登下校は認められないが、自動二輪車等の免許取得が届出制で認められるので、自動二輪車関係の指導方法を検討することが課題である。</p>	
4	<p>○昨年度より、大沢地区自治会長に学校評議員兼学校評価懇話会委員を委嘱して、学校の取組等について理解していただいた。また、中学校や越谷市とは、学校説明会や学習交流会、キャンペーン参加などで生徒や教員を派遣している。防災に関しての周辺自治会との連携の基礎作りが課題である。</p> <p>○昨年度は、懲戒処分者はゼロであったが、不適切な指導等は1件起こった。迅速な事実確認と対応により、大きな問題はならなかった。教職員倫理確立委員会と管理職が中心的な役割を果たしながら、根絶を目指すことが課題である。</p>	<p>○周辺自治会との連携の基礎作りと中学校との連携を強化する。</p> <p>○教職員による不適切な指導等及び懲戒処分者をゼロとする。</p>	<p>①周辺自治会の会長や防災担当者との協議会を2学期に開催する。</p> <p>②協議会の内容や当日の運営については、保健環境部と管理職が連携しながら計画を立案する。</p> <p>③出前授業中学校PTA学校訪問の受入、中央中学校との交流事業の再開を行う。</p>	<p>①協議会を1学期から計画的に進め、開催できたか。</p> <p>②管理職がイニシアチブを取りながら保健環境部と連携して、計画を立案、そして実施できたか。</p> <p>③積極的な受入で、生徒や教員を派遣できたか。</p>	<p>○地域関係機関(越谷市、周辺自治会、中学校等)と新たに2つの事業を実施し連携を強化。</p> <p>①②保健環境部と連携し、12/1本校・周辺自治会との防災合同協議会を開催。5自治体14名参加。</p> <p>③薬物乱用防止キャンペーン、越谷三祭、セク祭、白梅祭、市制60周年7/14イベントに参加。</p> <p>④中高交流授業を12/11、学習支援を12/26、27日に実施。</p> <p>⑤PTA学校訪問を6回、中学校での進路学習会の講演を4回実施(延べ1,350名参加)。</p>	A	<p>周辺5自治会と防災に関する協議を進め、防災意識の向上と避難体制の整備が課題である。</p> <p>地域関係機関との連携は引き続き強化するが、生徒募集の事業については、内容の見直しも含めて精進していくことが課題である。</p> <p>創立100周年に向けて、検討事項等が継続的に引き継ぎができるようしていくことが課題である。</p>	
5	<p>○昨年度、国際理解教育事業について、教職員の共通理解を図ることができた。特に、オーストラリア夏季短期海外研修の研修先を変更したものの、少なくとも3年間継続することを決定した。年々、海外に興味関心を持つ生徒は増加傾向にある。</p> <p>海外研修における事前・事後指導の充実と県教委事業への派遣生徒の英語力及び発信力の向上が課題である。</p>	<p>○オーストラリア夏季短期海外研修の事前指導の内容の工夫・改善及び授業の工夫・改善により、生徒の英語力及び発信力を高める。</p>	<p>①新たな国際理解教育推進委員会で、事前指導及び事後指導の在り方及び具体的な指導内容を5月中に策定する。</p> <p>②国際理解教育推進委員会と英語科が連携により、発信力の向上に向けた指導方法について、研究・実践する。</p> <p>③文化祭の際、海外研修の様子や参加した成果等の報告・発表をポスターと紙面で行う。</p>	<p>①事前・事後指導の在り方及び具体的な指導内容が策定できたか。</p> <p>②委員会と英語科が連携した指導で、発信力は海外研修会の参加前後で効果が上がったか。</p> <p>③海外研修前から、文化祭の時の報告・発表について、計画的に進められたか。</p>	<p>○国際理解教育に関する事業の見直しにより、生徒の英語に関する興味関心が高まり、昨年度に比べ模試の平均点偏差値が1.7向上した。</p> <p>①オーストラリア夏季短期海外研修の実施計画を見直し。事前学習を9回実施。英語科以外での初めての引率(地歴公民)。</p> <p>②英語科と連携した事業については、来年度、引き続き検討。</p> <p>③文化祭で、海外研修の様子や参加した成果等の報告・発表を行った。</p> <p>④成果等の報告冊子を10月に作成。</p>	A	<p>オーストラリア海外研修については、現地での研修内容の充実と参加生徒の募集方法の工夫が課題である。</p> <p>国際理解教育推進委員会と英語科が連携して、新たな取組を開発し、将来、国際社会で活躍できる人材を育成していくことが伝統ある進学校としての今後の課題である。</p>	

学校関係者評価	
実施日 平成31年 2月 7日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングを取り入れた授業は、学校全体で取り組めるようになってきたとあるが、どのような点から判断したのか。 ・ペア学習、グループ学習を導入した授業を行う教員が増えている点と、日々の授業参観や教員同士の会話の様子、自己評価シートの面談等から判断したということであるが、方策の評価指標は、「できない」より、アンケート調査での満足度に変更してはどうか。 ・子どもが通っている予備校では、越ヶ谷高校は生徒に対して面倒見がよいと言われた。子どもたちももっと自主的に学習できればよいと思っている。引き続き、潜在能力を伸ばしてあげて欲しい。 ・2年次になると学習時間は減少する傾向があるが、修学旅行後からは、例年より良い切り替えができてきて生徒が増え、平日5、6時間の学習時間を確保している生徒も数人いると聞いて安心した。 ・長期休業中の講習も、今後、一層充実させて欲しい。 ・タブレット等ICT機器の活用に向け、タブレット利用方法等の教員研修を実施する計画であるとのことだが、今後とも、授業の工夫・改善に向けて積極的に利用して生徒の理解度を高めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新1年次から国公立大学進学希望者クラスを設置するとのことだが、2年次に国公立進学希望者が減少した場合、国公立大学進学希望者クラスの数も減るのか。 ・2年次の国公立大学進学希望者クラスは、減る場合も増える場合もあるとのことだが、1年次から国公立大学への進学意識を高めて、国公立大学合格者が増えるような指導をお願いしたい。 ・国公立大学進学希望で入学した生徒が、3年次にはAOや推薦に流れてしまう傾向があるとのことだが、是非、最後まで国公立大学受験を目標とした指導をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の保護者は、「自由奔放」で「制服が整っていない」という印象を持っている方が少なくない。現在の本当の状況を、もっと積極的に発信したほうがよいと思う。 ・あいさつ運動を年3回やっているが、あいさつをする生徒が増えていると思う。学校やPTAの取組の成果が出ていると考えている。 ・道路交通法を知らない生徒が多いのではないかと。家庭の責任もあると思うが、今後、学校でもルールやマナーをしっかり教えていくことが大切である。 ・来年度から自動二輪の免許取得が許可制になることに伴い、交通事故が心配である。免許取得は、子ども・家庭の責任であり、学校の責任ではないが、任意保険加入の徹底はもとより、命の大切さから、運転・乗車や購入することを禁止するべきであると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとってためになることは、PTA・後援会・同窓会にもっと話をして欲しい。できる限りの協力や支援をするつもりである。 ・中央中学校の生徒の約1割は、越ヶ谷高校の全日制もしくは定時制への進学を希望している。文化祭に行った時にとでも親切にされたことや文武両道で部活動がとて盛んであることが理由である。 ・学校側が主体となり、学校と周辺自治会との防災合同協議会を開催することができた。非常時でも、越ヶ谷高校に通う生徒の学習環境を確保することが第一である。一時避難所としての役割をお願いすることもあるが、学校が教育機関であることは自治会でも理解している。 ・コミ協まつりでは、ダンス部と吹奏楽部に出演していただいたが、毎回、大変好評で人気もある。是非、来年度も出演の継続をお願いしたい。 ・週7で活動している部活動(ハンドボール部)があり、月毎の練習計画も事前に配布されていないので、改善をして欲しい。 ・有志部活動による、毎朝の町内清掃には大変感謝している。最近、越ヶ谷高校の評判が非常に高くなっている。 ・部活動ホームページの更新は、部によって差がある。年に一度も更新されない部活もあるようなので、学校としての対応を検討して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の時、ロータリークラブでオーストラリアに行ったことがある。海外研修の機会があることやロータリークラブについて、もっと生徒に宣伝した方がよいと思う。 ・部活動ではなく、ボランティア活動をするようなクラブがあれば、オーストラリア海外研修や交換留学などに参加しやすくなるのではないかと。 ・ロータリークラブを活用して、越ヶ谷高校でも交換留学を実施してみてもどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア海外研修については、現地での研修内容の充実と参加生徒の募集方法の工夫が課題である。 ・国際理解教育推進委員会と英語科が連携して、新たな取組を開発し、将来、国際社会で活躍できる人材を育成していくことが伝統ある進学校としての今後の課題である。